

千曲市家庭教育支援条例に基づく  
支援施策の報告について

令和元年度



千曲市キャラクター ひめ  
あん姫

千曲市

# 千曲市家庭教育支援条例に基づく 支援施策の報告について

千曲市家庭教育支援条例（平成27年千曲市条例第24号）第11条の規定により、  
家庭教育支援施策に関する報告を提出します。

令和2年6月

千曲市長 岡田 昭雄

## 目 次

令和元年度 家庭教育支援施策の一覧	・・・	1
1 親としての学びを支援する学習機会の提供（第12条）	・・・	3
2 親になるための学びの推進（第13条）	・・・	5
3 人材養成（第14条）	・・・	8
4 家庭、学校等、地域住民等の連携した活動の促進（第15条）	・・・	11
5 相談体制の整備・充実（第16条）	・・・	16
6 広報及び啓発（第17条）	・・・	20

## 令和元年度 千曲市家庭教育支援施策の一覧

### 1 親としての学びを支援する学習機会の提供（第12条）

事業名	担当課等
子育て応援アプリの推進	こども未来課
保育園保護者講演会	保育課（各保育園）
校長講話の実施、学校だより・家庭学習の手引きの発行	教育総務課（各学校）
家庭のしつけ講座	生涯学習課

### 2 親になるための学びの推進（第13条）

事業名	担当課等
小・中学生及び高校生との交流	保育課（各保育園）
総合的な学習、道徳、家庭科学習等の実践	教育総務課（各学校）
お手伝いの促進	教育総務課
家庭教育講座	生涯学習課（各公民館）
人権副読本「あけぼの」配布	人権・男女共同参画課

### 3 人材養成（第14条）

事業名	担当課等
保育実技研修会・講演会	保育課
小・中学生及び高校生との交流（再掲第13条）	保育課（各保育園）
青少年健全育成の推進	生涯学習課
市相談支援関係者連絡会議研修会	教育総務課
学校教職員対象人権研修会	人権・男女共同参画課

#### 4 家庭、学校等、地域住民等の連携した活動の促進（第15条）

事業名	担当課等
地域の高齢者との交流	保育課（各保育園）
子どもの居場所づくり事業	こども未来課
コミュニティスクールの推進	教育総務課（各学校）
副学籍制度の推進	教育総務課（各学校）
放課後子ども教室運営	生涯学習課
青少年健全育成の推進（再掲 第14条）	生涯学習課
補導委員の活動による支援	生涯学習課
学校人権教育活動	人権・男女共同参画課、教育総務課
郷土食の普及推進	農林課

#### 5 相談体制の整備・充実（第16条）

事業名	担当課等
家庭児童相談室運営事業	こども未来課
母子家庭等福祉事業	こども未来課
地域子育て支援拠点事業	こども未来課（子育て支援センター）
育児相談	保育課（各保育園）
すこやか相談、家庭・児童相談、支援会議	保育課（各保育園）
基幹相談支援センター事業	福祉課
母子保健事業	健康推進課
教育相談の実施	教育総務課
青少年の生活相談	生涯学習課

#### 6 広報及び啓発（第17条）

事業名	担当課等
子育て応援アプリの推進(再掲 第12条)	こども未来課
全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の家庭教育に関わる回答の経年変化・分析	教育総務課
家庭の日の啓発	教育総務課（各学校）、生涯学習課
育成センターだよりの発行	生涯学習課
パンフレットの配布及び説明	生涯学習課、こども未来課

## 1 親としての学びを支援する学習機会の提供（第12条）

### ○子育て応援アプリの推進 【こども未来課】

〈事業概要〉 子育て支援に関する情報を積極的に発信するためのスマートフォン向けアプリの運用保守
〈予算額〉 262,000円
〈主な取組と成果〉 子育て支援に関する情報を発信し、子育て世帯が親しみやすく、利用しやすいアプリの運用保守を行った。 3月末現在のユーザー数552人 対象者は、妊娠期から子育て世帯及び婚活者
〈次年度の計画〉 引き続き、構築したアプリの運用保守を行う。予算額264,000円

### ○保育園保護者講演会 【保育課（各保育園）】

〈事業概要〉 講演会を通して、子育てに関する学習、子どもの特性及び成長全般への理解を深め、子どもの理解を通しての親の支援の機会とする。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 各園ごとに年1回から2回、講演会や親子で楽しめるワークショップを行った。 全保護者が参加できるよう、保育参観日に講演会形式で研修をした。 親が子どもに共感し、寄り添うことを学び、日常における子育てについて振り返ることができ、日常の子育てのストレスの軽減の一助となった。また、子育てに関するヒントや手がかり等を感じることができた。
〈次年度の計画〉 保護者会の要望を考慮しながら、保育参観の中で継続して実施する。救急救命講習等を計画している。予算なし

○校長講話の実施、学校だより・家庭学習の手引きの発行

【教育総務課（各学校）】

〈事業概要〉 保護者に対して、家族の関わりと子どもの成長、家族の団らん、基本的な生活習慣を身につけることをはじめ、家庭教育支援に関わる情報を提供する。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 学校により内容や回数は異なるが、年間を通して、学校だより、校長講話を利用して情報提供を行った。 保護者の家庭教育に対する意識について啓発できた。
〈次年度の計画〉 引き続き保護者の意識の変革を図る。予算なし

○家庭のしつけ講座 【生涯学習課】

〈事業概要〉 小中学校等において、児童期・思春期等の子どもをもつ保護者を対象に、家庭教育に関する講演会等を実施する場合、講師謝礼の一部を助成する。
〈予算額〉 40,000円
〈主な取組と成果〉 小中学校等で講演会を開催する際、講師謝礼の一部を助成 1講座、一律8,000円
〈次年度の計画〉 引き続き実施するとともに、当事業の周知を行う。予算額40,000円

## 2 親になるための学びの推進（第13条）

### ○小・中学生及び高校生との交流 【保育課（各保育園）】

<b>〈事業概要〉</b> 小・中学生及び高校生が保育園を訪問し、園児と一緒に遊んだり、保育の体験学習をしたりすることで、将来親になることや子育ての楽しみを感じてもらう。
<b>〈予算額〉</b> なし
<b>〈主な取組と成果〉</b> 11園で職場体験学習やサマーチャレンジボランティア等を、中学生・高校生・大学生を対象に随時実施した。依頼により実施するため、園により実施回数は異なる。 学生には保育職場についての理解ができるとともに、将来親になる楽しみと子育ての充実感を肌で感じてもらうことができた。また、日頃接点のない幼児との関わりに戸惑う姿もあったが、時間とともに交流が深まり、関心、理解を持つ機会となった。園児も生徒とのふれあいを楽しんでいた。 また、保育士の仕事の大変さ、気配りの大切さ、働くことの大切さを学び、将来子どもと関わりの持てる職業に従事したいとの感想が寄せられた。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き実施する。予算なし

### ○総合的な学習、道徳、家庭科学習等の実践 【教育総務課（各学校）】

<b>〈事業概要〉</b> 学校の学習の中に位置づけられている「親になるための学び」を引き続き整理し、家庭教育という立場から見直し実践を継続する。
<b>〈予算額〉</b> 3,700,000円（学校交付金）
<b>〈主な取組と成果〉</b> 市内教職員に対して、市の家庭教育課題や必要とされる学びの内容について調査し、学習の中に位置づけられている「親になるための学び」を整理した。校長講話、学校だより、学年だより、授業等で実践されていることが明らかになった。
<b>〈次年度の計画〉</b> 教職員に対して、市の家庭教育課題や必要とされる学びの内容をふまえて、学校の学習の中に位置づけられている「親になるための学び」を意識して指導するように啓発する。 予算額3,700,000円（学校交付金）



### ○お手伝いの促進 【教育総務課】

<b>〈事業概要〉</b> 市内小学1年生全員を対象として、夏休みの前に「おてつだい帳」を配布し、お手伝いを促進した。
<b>〈予算額〉</b> なし
<b>〈主な取組と成果〉</b> お手伝いは、様々な生活能力を身につけ、働く経験を味わい、家族の一員としての役割を果たすなど、子どもの成長や自立を促す活動である。 市内小学校1年生全員に、「おてつだい帳（夏休みから1年分）」を配布し、お手伝いをする契機となるようにした。「おてつだい帳」には、お手伝いの意義、お手伝いの例、継続するための方策なども掲載した。 成果には、お手伝いの習慣が身についた子どもが多いこと、お手伝いをきっかけに親子の会話が増えたこと、例を示したことで、家庭や子どもの実態に応じたお手伝いに取り組めたこと、家族の一員としての自覚が生まれてきたこと等がある。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き実施する。予算額47,000円

### ○家庭教育講座 【生涯学習課（各公民館）】

<b>〈事業概要〉</b> 親子で参加でき、ふれあう場をつくり、家庭教育を支援する講座づくり
<b>〈予算額〉</b> 340,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 親子での活動の場や学び合う場を設定し、こども料理教室、親子お菓子づくり講座等、各種講座を実施した。 主に小学生を対象に、料理教室や茶道教室を開催し、大変好評だった。 実施は、年24講座
<b>〈次年度の計画〉</b> 今年度同様に、市民の求める講座内容や講師を選定し、事業を行う。 予算額340,000円

○人権副読本「あけぼの」配布 【人権・男女共同参画課】

〈事業概要〉

豊かな人権感覚を身につけた大人になってもらうための教育の一環として、市内すべての小中学校へ年代に即した人権教材副読本「あけぼの」を配布する。

〈予算額〉

916,000円

〈主な取組と成果〉

4月に全小中学校に配布。低学年482冊（1年生）、中学年462冊（3年生）、高学年532冊（5年生）、中学生533冊（1年生）、教師手引書75冊。「あけぼの」は、長野県同和教育推進協議会が研鑽を重ね、改訂をしている教材である。現状に適応した人権教育の教材を提供することで、学校での人権学習に活用することができた。

〈次年度の計画〉

引き続き配布を行う。継続した配布により、副読本が全児童・生徒の手に行き渡り、学校現場で活用することができる。予算額918,000円



### 3 人材養成（第14条）

#### ○保育実技研修会・講演会 【保育課】

〈事業概要〉 保育士の資質向上・専門性の充実のための研修会
〈予算額〉 なし（ちくま保育協会費より支出）
〈主な取組と成果〉 保育士の人材育成のため、保育従事者を対象とした保育協会主催の研修会、実技研修、講演会を年7回実施した。また、保育課主催の保育士研修会を2回実施したほか、県の保育研究大会、地域子育て塾、連携中枢都市圏の関係機関が主催する各種研修会に参加した。 支援児への支援の仕方、子どもの実態に合わせた保育、育ちを支える保育環境等を研修したことで、園外職員との話し合いを活発に行うなど、保育現場での実践につながっている。
〈次年度の計画〉 引き続き実施する。予算なし

#### ○小・中学生及び高校生との交流（再掲 第13条）【保育課（各保育園）】

〈事業概要〉 小・中学生及び高校生が保育園を訪問し、園児と一緒に遊んだり、保育の体験学習をしたりすることで、将来親になることや子育ての楽しみを感じてもらおう。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 11園で職場体験学習やサマーチャレンジボランティア等を、中学生・高校生・大学生を対象に随時実施した。依頼により実施するため、園により実施回数は異なる。 学生には保育職場についての理解ができるとともに、将来親になる楽しみと子育ての充実感を肌で感じてもらうことができた。また、日頃接点のない幼児との関わりに戸惑う姿もあったが、時間とともに交流が深まり、関心、理解を持つ機会となった。園児も生徒とのふれあいを楽しんでいた。 また、保育士の仕事の大変さ、気配りの大切さ、働くことの大切さを学び、将来子どもと関わりの持てる職業に従事したいとの感想が寄せられた。
〈次年度の計画〉 引き続き実施する。予算なし

## ○青少年健全育成の推進 【生涯学習課】

<p>〈事業概要〉</p> <p>各地区・支部の育成会、子ども会活動等のさらなる充実と活性化のため、地域の大人は子どもたちの主体性の育成に役立つ指導のあり方等を考える。また、子どもたちはリーダーとして主体的に活動するために、必要な知識・技能を親子一緒に身につける</p>
<p>〈予算額〉</p> <p>227,000円</p>
<p>〈主な取組と成果〉</p> <p>リーダー研修会を開催。子ども会各支部の6年生、地区育成会役員、支部育成会役員を対象に、宿泊体験研修、レクリエーション研修、子ども会行事の企画等を1泊2日の日程で6月中に2回開催した。</p> <p>参加者：子ども 計120名、指導者 計93名</p>
<p>〈次年度の計画〉</p> <p>引き続き実施予定。予算額227,000円</p>



### ○市相談支援関係者連絡会議研修会 【教育総務課】

<b>〈事業概要〉</b> 発達障がいのある児童生徒への支援方法や登園・登校しぶり、不登校に対して、教職員・保育士・市職員が適切な対応ができるようにし、家庭支援につなげる。
<b>〈予算額〉</b> 80,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 5月24日（金）信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 特任助教 樋端佑樹氏を招き、教職員・保育士・関係市職員を対象に、発達障がい・不登校に関わる研修会を開催した。 参加者のアンケート調査を行った結果、「新たな発見があり、今後の児童生徒や園児、保護者への接し方への参考になった」と意見が多数あった。
<b>〈次年度の計画〉</b> 専門的分野の講師を招き、教職員・保育士・関係市職員を対象に、発達障がい・不登校に関わる研修会を開催する。 予算額80,000円

### ○学校教職員対象人権研修会 【人権・男女共同参画課】

<b>〈事業概要〉</b> 学校教育における人権教育の一層の充実を図るため、市内小中学校教職員対象の研修会を開催する。
<b>〈予算額〉</b> 20,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 学校教職員の知識向上を図るため、6月25日（火）に（財）信州農村開発史研究所所長 斎藤 洋一さんを講師に迎え、研修会を開催した。参加者54名。 人権課題の中の同和問題について、正しい理解を深めることができた。
<b>〈次年度の計画〉</b> 上山田小学校教諭 小島 豪さんを講師に研修会を開催予定。 予算額20,000円

#### 4 家庭、学校等、地域住民等の連携した活動の促進（第15条）

##### ○地域の高齢者との交流 【保育課（各保育園）】

<p>〈事業概要〉</p> <p>園児がサロン等、地域の高齢者の集まりの場へ出向き、高齢者との交流を通して思いやりの心を育てる。</p>
<p>〈予算額〉</p> <p>なし</p>
<p>〈主な取組と成果〉</p> <p>依頼のあったサロンへ出向き、歌やリズムの発表や手遊び等のふれあい遊びを通して、地域の高齢者と交流した。</p> <p>公立8保育園で年1回から5回実施。依頼により実施するため、園により回数は異なる。</p> <p>核家族世帯の園児が多い中、地域の高齢者とふれあう貴重な機会となっている。園児には、交流を通じ、相手を思いやり、いたわりの心が育っている。また、高齢者にとっても、よい刺激となっている。</p>
<p>〈次年度の計画〉</p> <p>引き続き交流の機会をもつ。また、地域からの要望があれば未実施園でも、いきいきサロン等の交流を行っていく。</p> <p>予算なし</p>

##### ○子どもの居場所づくり事業 【こども未来課】

<p>〈事業概要〉</p> <p>官民協働で、ひとり親を中心とした貧困家庭の子どもに対する学習支援、食事の提供及び相談支援等を地域で行うとともに、継続的に支援を実施する体制を構築する。</p>
<p>〈主な取組と成果〉</p> <p>受託3団体との協働で事業を推進した。</p> <p>受託団体と詳細について打ち合わせを行い、更埴川東地区、更埴川西地区、戸倉上山田地区の3地区で、それぞれ開催した。</p> <p>対象者はひとり親家庭を中心に実施。予算額3,000,000円</p>
<p>〈次年度の計画〉</p> <p>「地域で支える“ひとり親”サポート事業」から「子ども居場所づくり事業」と事業名を変更し、引き続き支援が必要な子どもを含め、様々な環境下にある子どもたちの居場所づくりに取り組む団体を募り事業を支援する。</p> <p>予算額2,100,000円</p>

### ○コミュニティスクールの推進 【教育総務課（各学校）】

<b>〈事業概要〉</b> これまでの学校と地域が連携して子どもを育てる取組を土台にして、地域住民が学校運営に参画し、学校支援、学校評価を一体的・持続的に実施していく仕組みを整える。
<b>〈予算額〉</b> 702,000円（学校交付金）
<b>〈主な取組と成果〉</b> 市内の小中学校全13校すべてで運営委員会が立ち上がったことにより、地域、家庭と学校でより連携して子どもを育てる教育が推進できた。 特に、今年度は、学校だけの枠組みにとらわれず、地域のコーディネータや教職員が一堂に会した会議の中で、分散会を行い、情報共有を行った。
<b>〈次年度の計画〉</b> 各校の運営委員会がより機能するために、その構成員や活動内容等について情報交換し、改善を図る。 予算額702,000円（学校交付金）

### ○副学籍制度の推進 【教育総務課（各学校）】

<b>〈事業概要〉</b> 特別支援学校に在籍する児童生徒が、市立の学校に副学籍を置くことにより、地域の子どものとの交流を促進するとともに、地域で子どもを育てる意識を高める。
<b>〈予算額〉</b> なし
<b>〈主な取組と成果〉</b> 副学籍を希望した児童生徒が、それぞれの計画に基づいて地域の学校と交流した。 副学籍を置く児童生徒の中には、校内音楽会に参加して原学級の生徒と共に合唱した。また、下駄箱に自分の名前が書いてあることで、この学校の一員であることが認識できた児童生徒もいた。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き実施する。予算なし

### ○放課後子ども教室の運営 【生涯学習課】

<b>〈事業概要〉</b> 放課後に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもとともに勉強やスポーツ、交流を通して、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育つ環境づくりを推進する。
<b>〈予算額〉</b> 1, 102, 000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 市内1つの小学校で毎週水曜日の放課後に実施。登録制で、該当校に在籍する児童は誰でも参加できる。児童の参加率は72.8%で、地域スタッフと様々な活動を通して交流した。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き教室運営を行う。予算額1, 117, 000円

### ○青少年健全育成の推進（再掲 第14条） 【生涯学習課】

<b>〈事業概要〉</b> 各地区・支部の育成会、子ども会活動等のさらなる充実と活性化のため、地域の大人は子どもたちの主体性の育成に役立つ指導のあり方等を考える。また、子どもたちはリーダーとして主体的に活動するために、必要な知識・技能を親子一緒に身につける。
<b>〈予算額〉</b> 227, 000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> リーダー研修会を開催。子ども会各支部の6年生、地区育成会役員、支部育成会役員を対象に、宿泊体験研修、レクリエーション研修、子ども会行事の企画等を1泊2日の日程で6月中に2回開催した。 参加者：子ども計120名、指導者計93名
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き開催予定。予算額227, 000円



### ○補導委員の活動による支援 【生涯学習課】

〈事業概要〉 少年補導委員による巡回活動を通して、次世代を担う青少年の非行防止と健全育成に向けた取組を推進する。
〈予算額〉 2,344,000円
〈主な取組と成果〉 街頭補導活動（※ <sup>1</sup> 更埴地区 月10回、戸上地区 月6回）、環境チェック活動（更埴地区 年10回、戸上地区 年8回）、学校ごとにPTAとの合同補導活動（※ <sup>2</sup> 市内全13校 年1回）等により、青少年の健全育成の推進に取り組んだ。 ※ <sup>1</sup> 新型コロナウイルス感染症予防のため、3月は活動を中止した。 ※ <sup>2</sup> 例年2回実施。※ <sup>1</sup> 同様、3月の活動は中止した。
〈次年度の計画〉 引き続き取組を推進する。予算額2,130,000円

### ○学校人権教育活動 【人権・男女共同参画課、教育総務課】

〈事業概要〉 学校での人権学習について、それぞれの学校独自の人権教育や保護者・地域住民が参加する事業等を実施してもらうための活動費の補助を行う。
〈予算額〉 440,000円
〈主な取組と成果〉 6月に、市内の小中学校全13校すべてに活動補助金20,000円を交付した。 それぞれの学校で工夫をこらした学習を行った。PTAにおける人権研修会については、補助金等を活用し、すべての学校で実施した。また、埴生小学校では「人権教育研究指定校」として人権教育に取り組んだ。
〈次年度の計画〉 埴生小学校では、引き続き「人権教育研究指定校」として人権教育に取り組む。各学校の実情にあわせ、人権研修会等を開催する。 引き続き補助金を交付する。予算額420,000円

## ○郷土食の普及推進 【農林課】

<p>〈事業概要〉</p> <p>市内の食文化に精通し実績のある「かけはしの会」に、小中学校での郷土食講習会の開催を委託。講習会を開催することで、子どもたちに地域の食文化や農村の暮らしを伝承する機会とする。</p>
<p>〈予算額〉</p> <p>130,000円</p>
<p>〈主な取組と成果〉</p> <p>市内の小学校等で郷土料理講習会を全34回実施した。 小学生約900人が参加した。 小学校の放課後クラブや学校の授業で開催。ニラせんべい・おやき・あんずジャム等の郷土料理の味と作り方について、子どもたちと楽しく学習ができた。</p>
<p>〈次年度の計画〉</p> <p>引き続き講習会を開催する。予算額130,000円</p>



## 5 相談体制の整備・充実（第16条）

### ○家庭児童相談室運営事業 【こども未来課】

〈事業概要〉 家庭における適切な児童養育、家庭児童福祉の向上を図るため、家庭相談員を配置し、相談支援に応じる。
〈予算額〉 4,264,000円
〈主な取組と成果〉 子ども家庭総合支援拠点を設置し、相談支援体制の人員強化を図り、関係機関との情報共有等をきめ細かに実施することができた。 相談件数4,365件
〈次年度の計画〉 引き続き関係機関等と連携して実施する。予算額4,985,000円

### ○母子家庭等福祉事業 【こども未来課】

〈事業概要〉 ひとり親家庭の自立支援のため、母子・父子自立支援員を配置し、相談に応じるとともに、職業能力の向上及び求職活動に関する支援を行う。
〈予算額〉 12,818,000円
〈主な取組と成果〉 関係機関等と連携しながら、自立に向けての相談支援に努めた。 相談件数401件
〈次年度の計画〉 引き続き関係機関等と連携して実施する。予算額13,112,000円

### ○地域子育て支援拠点事業 【こども未来課（子育て支援センター）】

〈事業概要〉 子育て支援センターに相談員を配置し、子育てに関する相談等を実施する。
〈予算額〉 13,699,000円
〈主な取組と成果〉 関係機関等と連携をとり実施した。 相談件数301件
〈次年度の計画〉 引き続き関係機関等と連携して実施する。予算額12,722,000円

### ○育児相談 【保育課（各保育園）】

〈事業概要〉 子育てに悩む保護者への支援を行う。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 全園で年1～2回、個別懇談を実施した。育児相談は随時実施した。 相談内容に応じて保健師、栄養士、家庭相談員と連携して対応した。 個別懇談においては、園や家庭における配慮について、統一した考えのもとで保育できるよう話し合いが行われた。懇談により保護者の考えや意向を知ることができ、また、連携をとりながら子どもの成長を見守っていくこともでき、子ども自身の成長にも繋がっていった。 相談件数241件
〈次年度の計画〉 引き続き実施する。予算なし

### ○すこやか相談、家庭・児童相談、支援会議【保育課（各保育園）】

〈事業概要〉 支援児の個々のニーズに合わせた相談、援助、支援会議の実施
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 相談等は全園で行い、すこやか相談81件、家庭相談29件、保護者との支援会議58件を実施した。 すこやか相談では、保護者の不安な気持ちが解消され、園や家での子どもに対する関わり方、支援の仕方を共有することができ、療育施設への利用にも繋がった。また、すこやか相談から就学に向けて、相談機関の先生から専門性を生かした助言を頂き移行支援会議へとスムーズに繋げることができた。 家庭相談では、関係者でケース会議を行い、家庭への支援方法について話し合った。 就学移行支援会議は11園で1月以降に各園1回から4回実施し、小学校教員、保護者、担任、園長、主任保育士、教育相談員同席で小学校での支援について話し合いをした。情報を共有したことで、保護者も安心して就学に向けて考えることができ、小学校でも引き続き支援をしていく必要性を確認できた。 医療センターの受診の際には園長が付き添い、保育園でできることを模索した。相談機関や専門機関との連携を図り、個々に対応を検討することにより、保護者と園が同じ方向性を持って子どもに関わることができ、支援児の成長の助けとなり、安心して生活できるようにしている。
〈次年度の計画〉 引き続き園児への適切な援助を探り、支援する。予算なし

## ○基幹相談支援センター事業【福祉課】

<b>〈事業概要〉</b> 障がい者や障がい児及びその家族など幅広い相談に対応できる窓口機能のほか、地域の相談支援事業所の相談支援専門員が相談できる機能やケース会議への同行、訪問や指導・助言などを行い、相談支援の充実を図る。
<b>〈予算額〉</b> 18,934,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 障がい者（児）に関わる相談業務を実施し、障がい者の福祉サービスや障害児の通所サービスの利用等について検討・協議を行なったほか、医療機関から地域への退院支援も実施するなど、本人の自立に向けた支援等を展開できた。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き実施する。障がい者（児）相談や地域の相談支援事業所との連携、医療機関等からの地域への移行、権利擁護等についての支援を実施していく。 予算額19,693,000円

## ○母子保健事業【健康推進課】

<b>〈事業概要〉</b> 母子保健法に基づく母性並びに乳幼児の健康の保持・増進を図るための保健指導、健康診査等の母子事業
<b>〈予算額〉</b> 61,552,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 母子手帳交付時には保健師が必ず面談を行い、妊婦の不安の解消に努めた。 子育て世代包括支援センターを開設（令和元年9月）し、こども未来課との子育てサポート会議を7回実施。妊産婦について情報共有し支援方法を検討した。 妊婦訪問49人・赤ちゃん訪問335人（98.8%）産婦健診利用者363人（2週間健診利用率85.7%）（1か月健診利用率87.1%） 産後ケア訪問 実人数56名、延べ人数97名。妊娠中から産後の支援を強化し産後うつ予防、早期発見に努めることが出来た。3か月・1歳6か月・2歳・3歳児健康診査77回、7か月・10か月離乳食相談44回、育児相談22回、心理発達相談92回、言語相談10回、すくすく広場（乳幼児や母のフォローを目的とした遊びの教室）20回、たまご教室（妊婦とその家族のための健康教室）13回 妊婦乳幼児健康診査等各種母子事業を通して子どもの成長・発達について把握し、年齢に応じ必要な保健・栄養知識の普及をした。また、保護者の相談支援を行い、育児不安の軽減を図ることができた。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き実施する。予算額63,117,000円

## ○教育相談の実施 【教育総務課】

<b>〈事業概要〉</b> 教育相談センター及び教育相談室を設置し、保護者が子育ての悩み、不登校、学校でのトラブルなどの相談をし、安心して子育てができるように支援する。
<b>〈予算額〉</b> 7,600,000円（教育相談室人件費）
<b>〈主な取組と成果〉</b> 相談関係者が連携して支援に当たれるようにし、保護者や児童生徒の不安を取り除く支援をした。 不登校、発達障がいに関わる支援及び学校生活に関わる支援をすることができた。 教育相談：教育相談センター計24件、教育相談室のべ1,289件（内訳は、幼稚園・保育園への巡回訪問500件、小学校の教育相談511件、中学校の教育相談278件）
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き関係機関等と連携し、支援する。相談窓口を周知し、保護者が気軽に相談できるようにする。予算額8,587,000円

## ○青少年の生活相談 【生涯学習課】

<b>〈事業概要〉</b> 子どもや保護者を対象とした、生活相談窓口の設置。
<b>〈予算額〉</b> 1,116,000円
<b>〈主な取組と成果〉</b> 社会教育指導員を配置し、いじめなどの子どもの悩み、保護者が抱える子どもの生活や問題行動、非行防止等に関する悩みについての相談・支援を行う環境を整えている。
<b>〈次年度の計画〉</b> 引き続き環境を整備し、相談・支援を行う。予算額1,276,000円

## 6 広報及び啓発（第17条）

### ○子育て応援アプリの推進（再掲 第12条） 【こども未来課】

〈事業概要〉 子育て支援に関する情報を積極的に発信するためのスマートフォン向けアプリの運用保守
〈予算額〉 262,000円
〈主な取組と成果〉 子育て支援に関する情報を発信し、子育て世帯が親しみやすく、利用しやすいアプリの運用保守を行った。 3月末現在のユーザー数 552人 対象者は、妊娠期から子育て世帯及び婚活者
〈次年度の計画〉 引き続き、構築したアプリの運用保守を行う。予算額264,000円

### ○全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の家庭教育に関わる回答の経年変化・分析【教育総務課】

〈事業概要〉 家庭教育に関わる回答の分析により、千曲市の家庭教育の課題を探る。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 市の家庭教育の課題を明らかにし、解決するために、調査結果が出た10月より、国・県との比較を行ったところ、家庭学習において、自主性、予習・復習に課題があることが明らかになった。各校の家庭学習の手引き等によって、指導・啓発していく。
〈次年度の計画〉 引き続き経年変化に関する資料の収集に努め、市内の家庭の課題と課題解決のための施策を明らかにする。予算なし

**○家庭の日の啓発 【教育総務課（各学校）、生涯学習課】**

〈事業概要〉 「家庭の日」（毎月第3日曜日）を意識し、家族の団らんを促進する。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 保護者等に「家庭の日」を意識してもらうため、各学校の年間計画等に「家庭の日」を明記した。また、毎月、有線放送や育成センターだよりで広報を行った。
〈次年度の計画〉 引き続き広報を行う。予算なし

**○育成センターだよりの発行 【生涯学習課】**

〈事業概要〉 青少年の健全育成や非行防止活動の拠点として設置された少年育成センターの活動を掲載した広報紙を毎月発行
〈予算額〉 80,000円
〈主な取組と成果〉 少年補導委員の巡回活動での様子や、子どもたちの将来の夢の作文、「家庭の日」の記事を掲載し、市民に向けて青少年の様子を周知した。
〈次年度の計画〉 次年度より、年4回のセンターだよりを発行し、広く市民に周知を図る。 予算額78,000円

**○パンフレットの配布及び説明 【生涯学習課、こども未来課】**

〈事業概要〉 「家庭教育支援条例（平成28年4月1日施行）」及び「子ども育成条例（平成27年3月25日施行）」の広報活動。
〈予算額〉 なし
〈主な取組と成果〉 育成会関係の会議及び研修（3回 各回約50名）、区長会連合会総会（1回）に出向き、パンフレットを配布し説明を行った。
〈次年度の計画〉 引き続き広報活動を行う。予算なし